

【基本施策の目的】

歩行者、自転車、自動車など道路を利用するすべての人々が、安全・快適で円滑に移動できる道路空間を確保します。

【基本施策の今後の優先度】

判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
	基本施策の指標値は、基本的に維持傾向にあるものの、住みたいまち、住み続けたいまちの実現に向け、すべての道路利用者に対し、安全で快適な道路空間の確保に取り組んでいく必要がある。しかし、当面は現状の取り組みを継続的に進めていく予定であり、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、経営資源の配分は優先度を普通と判断した。

【指標の分析】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
安全・快適で円滑に移動できる道路空間が確保できていると思う市民の割合	%	実績	41.7	44.4	41.3	42.0	41.0	指標値は、目指す方向性に反し、実績が微減となった。その要因として、実施計画事業の進捗はしているが、事業半ばであり、その完了による効果が表れてないからだと考える。	事業が完了していないため、整備効果を実感できずに、基本施策の進捗状況を測定する指標に良好な結果が得られていない。そのため、早期整備に向け、市民がより実感できる事業に集中的に投資する。
		目指す方向性							

【施策推進事業の考え方】

経常事業	削減に関する具体的な考え方	<p>橋りょう維持補修事業のうち橋りょう現況調査委託料(橋梁定期点検)は、平成26年度に道路法施行規則が改正され、国が定める統一的な基準により、管理する全橋梁(507橋)について5年に1回の頻度で、近接目視により点検を行うことが義務化されたことに伴う委託料である。平成26年度からコンサルタント業者へ定期点検を委託し、今年度までに全橋梁の定期点検が完了する予定である。今年度に全橋梁の点検が一巡することにより、その点検及び調書作成のノウハウが蓄積されることとなる。そのため平成31年度からの二巡目の点検については、全橋梁をこれまでと同様に業務委託するのではなく、小規模で健全な比較的点検が容易な橋梁については、職員が直接点検を実施することで事業費の削減を図る。さらに技術職員が直営点検することで、実践現場での経験を踏まえた知識や技術力の向上、若手職員の育成に繋がることが期待できる。</p> <p>【削減内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H31は、直営点検を10橋実施し、3,400千円の削減を実施予定。 <p>(H26～H30橋梁点検(507橋)設計額合計:172,606千円(平均340千円/1橋))</p>
実施計画事業	資源投入の考え方	<p>大山区における県道明知小牧線は、地区を東西に横断する主要幹線道路であるが、朝夕の通勤・通学の時間帯には渋滞が生じており、地域住民の生活や交通環境に支障をきたしている。加えて、本地区では名古屋コーチン種鶏場移転計画及び民間による大規模開発の計画が進められており、今後さらなる交通需要が見込まれている。</p> <p>そこで、交通の分散による交通環境の改善、利便性向上など、地域住民が強く効果を実感できる事業として、県道明知小牧線と平行する市道大山東大山南線の整備を新規計上する。</p>

展開方向1	名称	円滑に移動できる道路を整備します							
	目的	○市内の交通渋滞を解消します。 ○円滑な路面走行により、安全で快適な通行を確保します。							
	所管課	道路課							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
渋滞が多いまちと思うドライバーの割合	%	実績	56.5	60.0	54.4	59.5	61.7	指標値は目指す方向性に反し、実績が微減となった。その要因として、実施計画事業は進捗しているものの、事業半ばであり、その完了による効果が表れてないからだと考える。	事業が完了していないため、整備効果を実感できずに、基本施策の進捗状況を測定する指標に良好な結果が得られていない。そのため、早期整備に向け、市民がより実感できる事業に集中的に投資する。
		目指す方向性	↓						
展開方向2	名称	交通安全施設を整備します							
	目的	○通学路における児童・生徒の通行の安全を確保します。 ○歩行者や自転車の通行の安全を確保します。							
	所管課	道路課							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
歩行者の交通事故件数	件	実績	70 (H24年)	66	48	49	47	事故はまだまだ多数発生しているものの、概ね減少傾向にある。自動車数の増加や、高齢者増加等による交通弱者(歩行者)が増加傾向にあるなかでの事故件数減少であり、実施事業に一定の成果があったものとする。	いまだ多数発生する事故に対し、小牧警察より資料提供を受け、事故発生箇所及び原因を検証する事で、より一層の安全に配慮した設計・施工を行い、また優先度判断の指針とする。
		目指す方向性	↓						
展開方向3	名称	橋りょうを計画的に管理します							
	目的	○歩道橋を含めた橋りょうの安全な通行を確保します。							
	所管課	道路課							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
橋りょうの耐震補強工事実施率	%	実績	55.8	58.1	61.6	65.1	65.1	橋りょうの長寿命化修繕計画の策定など、計画的な維持管理を進め、橋りょう管理コストを縮減するとともに、安全性を向上させる。また、耐震設計を行い、耐震工事を行うことにより、震災時の緊急輸送、避難のための道路網を確保する。	事業費の高騰などにより、事業の遅れが予測されることから、市民生活に影響を与えないように計画を検討し見直し必要がある。
		目指す方向性	↑						